園長と語ろう

―幼い頃の大切な記憶―

園長　家田　美里

二学期が始まり一ヶ月が経ちました。三歳児のしろバス（特別午前保育）も終わり全員の足並みが揃いました。一学期を目一杯過ごしてきた子ども達は、夏休み明けもすぐに勘を取り戻し、いやいやそれ以上のダイナミックな遊びが始まりました。グズグズしているのは大人の方でいつまで経っても身体が重いです。

先日、地区の研修で「絵本の読み方・楽しみ方について」話を聞く事がありました。私達は毎日、保育の中で絵本を読んでいます。むらさきの子ども達は絵本が大好きで、大好きな絵本は毎日でも「よんでー」と持ってきます。（昨日も読んだなぁ）と大人は思ってしまいがちですが、一回読み終わっても「もういっかいよんでー」と連続で読んでも何度でも絵本の世界に入り込んでいます。新しい絵本を読み始めた頃は楽しくて何度も読み、内容を覚える程好きになれば「しってるー、つぎは○○やでー」と教えてくれたりと何度も楽しめる絵本はすごいと思いました。講演の中で「大人は文字を読み、子どもは絵を読む」と聞きました。子どもは絵を見て「あれはなに？」や「つぎはどうなるの？」とどんどん色々な事を想像します。そこへ私達が文字を読む事で完成する事に気づきました。又、その先生は大学でも講義をされているそうで、学生に「誰かに絵本を読んでもらってください」という課題を出されたそうです。友達と読み聞かせをし合ったり、自分のお母さんに読んでもらったりと人それぞれだったそうです。久しぶりにお母さんに読んでもらった学生の中に「涙が出てきた」と言った子がいたそうです。幼い頃を思い出したのでしょうか。この頃の親子のコミュニケーションはとても大切で、それを思い出すだけで嬉しく心が癒され涙が出たのかなと思いました。

そんな話を聞きながら私自身はどうだったのだろうかと思い出してみました。母は料理が得意で、おやつも手作りしてくれてました。その時はその大変さに気づけず「ポテチがいい」などと思っていましたが…。絵本は？と考えると父の顔が浮かびました。いつも父に読んでもらっていた記憶がありました。又、絵本ではないのですがお風呂で聞く昔話が大好きでした。登場人物によって声も話し方も変わり、目の前に登場人物がいるようでお話の世界に入り込んでいました。今も時々、子ども達に絵本を読んでいる父の姿を見ると昔と変わらず、聞いている子ども達の目はキラキラと輝き始めだんだん前のめりになり絵本の世界に引き込まれて行きます。「そうそうそれそれ、私と一緒だ」と幼い頃の自分を見ているようでした。皆さんはどうですか？誰かに絵本を読んでもらってくださいと言われたら誰に読んでもらいますか？やはりお父さん、お母さんに読んでもらいますか？その時の楽しかったという記憶が蘇り、少し思い出すだけで他にも沢山の事を思い出すのではないでしょうか？一緒に買い物や遊びに行った事、熱が出た時に看病してもらった事や怒られた事。いくつになっても大切な思い出でありその人夫々の財産です。

この子達が大人になった時に、今の私のように思い出してくれるのかな？と思います。しかしその事を願い過ぎるあまり、わざとらしくヤラセを行なってもすぐにバレてしまい子ども達には響きません。今のまま、ありのままの姿がよいと思います。子ども達もそうです。この時期になると「幼稚園」という社会の中で自分と考え方の違う人がいるのだという事に気づきます。その気づきにより悲しい思いをしている子、悲しい思いをさせてしまった子、周りで見ている子、夫々がどうすればいいのか模索中です。幼稚園は楽しいけれど嫌な事もある。毎日フルパワーで過ごしている子ども達。お家に帰ったら、今のありのままの姿を受け止めてあげてください。ぎゅっと抱きしめてあげるだけで安心し、また元気に次の日が迎えられます。私達には出来ない「おうちの方の魔法のぎゅっ♡」大きくなっても心の支えになる筈です。私達も日々の何気ない遊びや絵本の読み聞かせなど、一つ一つ丁寧に接していこうと改めて思いました。

